

## 上野の山の西郷さん

長谷川 修

珍しい写真に出会った。画像は少し不鮮明だが、大きい銅像の台座や本体に大量の紙片が貼られている。これは九九年前の九月に関東大震災で罹災した人が、家族や知人の安否を尋ねる貼り紙だ。一五区時代の東京市民にとって、上野の山の西郷さんは身近なランドマークだったことがうかがえる。

一〇年程前まではJR上野駅のホームから銅像の一部が望めた。レストラン聚楽のあった建屋は現在「UENO3153」ビルに建て替えられ、西郷像とその周辺は屋上庭園に位置し、上野駅から見ることができなくなった。

上野に出かけ西郷さんの銅像の近くを通るたびに、複雑な思いにおちいる。

西郷隆盛は倒幕における最大の功労者で、維新後の論功行賞では大久保、木戸に差をつけ、個人としては最高位を受けた。しかし明治政府の進める新国家建設では意見の合わないことが多く、征韓論を巡る政争に敗れたのを機に下野し、郷里の鹿児島に帰る。鹿児島では私学校を創設し人材育成に力を注ぐものの、明治一〇年士族層の解体に不平・不満をもつ子弟に担がれ、反乱軍の頭領として政府軍と戦う。この西南戦争は八ヶ月続き、死者は両軍合わせて一万三千人にのぼるも、終に城山で自刃した。

西郷は「元勳」から一転して「逆賊」となったわけだが、その復権は早く明治二二年の帝国憲法発布に伴う大赦によって、罪を許され正三位を追贈される。多くの人に慕われていた西郷人気は高く、復権の直後から銅像建設の話が持ち上がり、明治天皇の下賜金と二万五千人の寄付金で、明治三十一年上野公園に銅像が完成した。

当時の在日外国人の多くは、元逆賊の銅像が首都の一等地に建てられたことを理解不可能と記している。日本人にとっては、平将門や菅原道真と同じように、怨霊を丁寧に祀ることで帝都の守護神として弔ったのだろうか。

銅像の背中側の数十M離れた所に上野彰義隊の墓がある。黒門口の攻防は激しい白兵戦となったが、攻撃する薩摩軍の総大将は西郷隆盛だった。